

第3問 (35点)

次の決算整理前残高試算表、および決算整理事項にもとづいて、損益計算書と貸借対照表を完成しなさい。会計期間は、×6年4月1日から×7年3月31日までの1年である。

決算整理前残高試算表

×7年3月31日

借 方	勘 定 科 目	貸 方
17,010,000	現 金	
4,725,000	普 通 預 金	
15,120,000	当 座 預 金	
3,969,000	受 取 手 形	
4,536,000	売 掛 金	
510,300	仮 払 金	
1,080,000	仮 払 法 人 税 等	
1,417,500	繰 越 商 品	
5,103,000	備 品	
	支 払 手 形	6,503,220
	買 掛 金	3,402,000
	借 入 金	7,020,000
	社 会 保 険 料 預 り 金	84,780
	貸 倒 引 当 金	113,400
	備 品 減 価 償 却 累 計 額	1,630,125
	資 本 金	21,600,000
	繰 越 利 益 剰 余 金	7,830,000
	売 上	23,328,000
	受 取 手 数 料	1,020,600
11,623,500	仕 入	
1,162,350	給 料	
850,500	広 告 宣 伝 費	
3,402,000	支 払 家 賃	
648,000	法 定 福 利 費	
779,625	減 価 償 却 費	
595,350	支 払 利 息	
72,532,125		72,532,125

[決算整理事項]

1. 仮払金¥510,300はすべて仕入先に対する買掛金を決済したことによる支払い額であることが判明した。
2. 現金¥216,000を当社の普通預金口座へ入金したが、未記帳であった。
3. 広告宣伝費¥27,000を普通預金口座から支払ったが、未記帳であった。
4. 売上債権の期末残高に対して2%の貸倒れを見積もる。貸倒引当金の設定は差額補充法による。
5. 期末商品の棚卸高は¥1,701,000であった。なお、売上原価は仕入勘定で計算する。
6. 備品について当月の減価償却費¥70,875を計上した。
7. 手数料の未収分が¥113,400ある。
8. 支払家賃は、店舗建物の賃借によるもので、当期9月1日に向こう1年分として支払ったものである。
9. 法定福利費の未払分が¥84,780ある。
10. 当期の法人税、住民税及び事業税は¥2,052,000と算定された。仮払法人税等との差額は未払法人税等として計上する。

受験番号

氏名

日商簿記検定 ネット試験対策 模擬試験
第1回 答案用紙

3 級 ④

採点欄

第3問

商業簿記

第3問 (35点)

損益計算書

北海道株式会社 ×6年()月()日～×7年()月()日 (単位：円)

費用	金額	収益	金額
売上原価	()	売上高	()
給料	()	受取手数料	()
広告宣伝費	()		
支払家賃	()		
法定福利費	()		
貸倒引当金繰入	()		
減価償却費	()		
支払利息	()		
法人税等	()		
当期純利益	()		
	()		()

貸借対照表

北海道株式会社 ×7年()月()日 (単位：円)

資産	金額	負債及び純資産	金額
現金	()	支払手形	()
普通預金	()	買掛金	()
当座預金	()	借入金	()
受取手形	()	社会保険料預り金	()
貸倒引当金	△() ()	未払費用	()
売掛金	()	未払法人税等	()
貸倒引当金	△() ()	資本金	()
商品	()	繰越利益剰余金	()
前払費用	()		
未収収益	()		
備品	()		
減価償却累計額	△() ()		
	()		()

第3問 解答 (35点)

損益計算書

北海道株式会社 ×6年(4)月(1)日～×7年(3)月(31)日 (単位：円)

費用	金額	収益	金額
売上原価	(11,340,000)	売上高	(23,328,000)
給料	(1,162,350)	受取手数料	(1,134,000)
広告宣伝費	(877,500)		
支払家賃	(1,984,500)		
法定福利費	(732,780)		
貸倒引当金繰入	(56,700)		
減価償却費	(850,500)		
支払利息	(595,350)		
法人税等	(2,052,000)		
当期純利益	(4,810,320)		
	(24,462,000)		(24,462,000)

貸借対照表

北海道株式会社 ×7年(3)月(31)日 (単位：円)

資産	金額	負債及び純資産	金額
現金	(16,794,000)	支払手形	(6,503,220)
普通預金	(4,914,000)	買掛金	(2,891,700)
当座預金	(15,120,000)	借入金	(7,020,000)
受取手形	(3,969,000)	社会保険料預り金	(84,780)
貸倒引当金	△(79,380) (3,889,620)	未払費用	(84,780)
売掛金	(4,536,000)	未払法人税等	(972,000)
貸倒引当金	△(90,720) (4,445,280)	資本金	(21,600,000)
商品	(1,701,000)	繰越利益剰余金	(12,640,320)
前払費用	(1,417,500)		
未収収益	(113,400)		
備品	(5,103,000)		
減価償却累計額	△(1,701,000) (3,402,000)		
	(51,796,800)		(51,796,800)

一つにつき4点、一つにつき3点を与える。合計35点。

❖ 解答への道

1 仮払金の整理

買掛金の支払いであったことが判明したため、全額、買掛金勘定の減少として処理します。

(買 掛 金)	510,300	(仮 払 金)	510,300
---------	---------	---------	---------

※ B/S 買掛金：3,402,000円 - 510,300円 = 2,891,700円

2 普通預金口座への入金（未処理事項）

現金を普通預金口座へ入金した場合は、現金勘定から普通預金勘定へ振り替えます。

(普 通 預 金)	216,000	(現 金)	216,000
-----------	---------	-------	---------

※ B/S 現金：17,010,000円 - 216,000円 = 16,794,000円

3 広告宣伝費の支払い（未処理事項）

広告宣伝費を支払った場合は、広告宣伝費勘定の増加として処理します。

(広 告 宣 伝 費)	27,000	(普 通 預 金)	27,000
-------------	--------	-----------	--------

※ P/L 広告宣伝費：850,500円 + 27,000円 = 877,500円

※ B/S 普通預金：4,725,000円 + 216,000円 - 27,000円 = 4,914,000円

4 貸倒引当金の設定

貸倒引当金勘定の残高が、売上債権（受取手形と売掛金）期末残高の2%になるように、差額を補充します。

(貸 倒 引 当 金 繰 入)	56,700*	(貸 倒 引 当 金)	56,700
-----------------	---------	-------------	--------

* (T/B 受取手形 3,969,000円 + T/B 売掛金 4,536,000円) × 2% = 設定額 170,100円
170,100円 - T/B 貸倒引当金 113,400円 = 繰入額 56,700円

※ B/S 貸倒引当金（受取手形）：3,969,000円 × 2% = 79,380円

※ B/S 貸倒引当金（売掛金）：4,536,000円 × 2% = 90,720円

ここ重要!

■ 貸倒引当金繰入の算式

$$\text{貸倒引当金繰入} = \frac{\text{売掛金} \cdot \text{受取手形などの期末残高} \times \text{実績率} - \text{貸倒引当金残高}}{\text{見積額（設定額）}}$$

■ 貸借対照表の計上額

貸借対照表に計上される貸倒引当金の金額は、見積額（設定額）と一致します。

5 売上原価の計算

仕入勘定で売上原価を算定し、繰越商品勘定を期末商品棚卸高にします。

(仕 入)	1,417,500*	(繰 越 商 品)	1,417,500
(繰 越 商 品)	1,701,000	(仕 入)	1,701,000

* T/B 繰越商品（期首商品棚卸高）

※ P/L 売上原価：1,417,500円 + 11,623,500円 - 1,701,000円 = 11,340,000円

ここ重要!

■売上原価の算定

$$\text{売上原価} = \text{期首商品棚卸高} + \text{当期商品仕入高} - \text{期末商品棚卸高}$$

■仕入勘定の区別

	決算整理「前」残高試算表	決算整理「後」残高試算表
仕入勘定の意味	当期商品仕入高	売上原価

6 備品の減価償却

備品について、当月の減価償却費を計上します。

(減価償却費)	70,875	(備品減価償却累計額)	70,875
---------	--------	-------------	--------

※ P/L 減価償却費：779,625円 + 70,875円 = 850,500円

※ B/S 減価償却累計額：1,630,125円 + 70,875円 = 1,701,000円

7 収益の未収

手数料の未収分を未収手数料として処理します。

(未収手数料)	113,400	(受取手数料)	113,400
---------	---------	---------	---------

※ P/L 受取手数料：1,020,600円 + 113,400円 = 1,134,000円

8 費用の前払い

支払家賃勘定の残高3,402,000円は、当期（×6年9月1日）に支払った12か月分（×6年9月1日～×7年8月31日）です。したがって、次期の5か月分（×7年4月1日～8月31日）を前払家賃として処理します。

(前払家賃)	1,417,500*	(支払家賃)	1,417,500
--------	------------	--------	-----------

* T/B 支払家賃 3,402,000円 × $\frac{5 \text{ か月}}{12 \text{ か月}}$ = 前払額 1,417,500円

※ P/L 支払家賃：3,402,000円 - 1,417,500円 = 1,984,500円

9 費用の未払い

法定福利費の未払分を未払法定福利費として処理します。

(法定福利費)	84,780	(未払法定福利費)	84,780
---------	--------	-----------	--------

※ P/L 法定福利費：648,000円 + 84,780円 = 732,780円

ここ重要!

■費用・収益の未払い・未収、前払い・前受け

経過勘定	費用・収益の処理	
未払〇〇(負債)	費用	増やす
未収××(資産)	収益	
前払〇〇(資産)	費用	減らす
前受××(負債)	収益	

10 法人税等の処理

当期の法人税等を計上します。期中に仮払法人税等が計上されている場合には、これを取り崩し、残額を未払法人税等として計上します。

(法人税等)	2,052,000	(仮払法人税等)	1,080,000
		(未払法人税等)	972,000

※ B/S 未払法人税等：2,052,000円 - 仮払法人税等1,080,000円 = 972,000円

11 損益計算書および貸借対照表

決算整理前残高試算表の金額と、仕訳の金額を加減算した修正後の勘定残高を資産・負債・資本（純資産）、および収益・費用に分類します。資産・負債・資本（純資産）は貸借対照表へ、収益・費用は損益計算書へ記入します。

(1) 損益計算書記入上の注意

- ① 表題下に「会計期間」を表示します。
- ② 「売上」勘定残高は、「売上高」と表示します。
- ③ 「仕入」勘定残高は、「売上原価」と表示します。
- ④ 貸借差額を当期純損益として表示します。

当期純利益：収益合計24,462,000円 - 費用合計19,651,680円 = 4,810,320円

(2) 貸借対照表記入上の注意

- ① 表題下に「決算日」を表示します。
- ② 「貸倒引当金」勘定残高は、資産の「売掛金」「受取手形」から個別に控除する形式で表示します。
なお、以下のように、売上債権の合計額から一括して控除する方法などもありますので、答案用紙の形式には注意しましょう。

受取手形	3,969,000	
売掛金	4,536,000	
貸倒引当金	<u>170,100</u>	8,334,900

- ③ 「繰越商品」勘定残高は、「商品」と表示します。
- ④ 費用の前払額は「前払費用」、収益の前受額は「前受収益」、費用の未払額は「未払費用」、収益の未収額は「未収収益」と表示します。
- ⑤ 「備品減価償却累計額」勘定残高は、資産の「備品」から控除する形式で表示します。なお、複数の固定資産を所有している場合は、それぞれの固定資産から控除する形式で表示しますが、固定資産の合計額から減価償却累計額の合計額を一括して控除する方法などもあります。
- ⑥ 「繰越利益剰余金」は当期純利益を加算した金額を表示します。

Link

出題内容	合格テキスト 合格トレーニング	スッキリわかる	簿記の教科書 簿記の問題集
財務諸表の作成	テーマ26	第18章	CHAPTER10～12